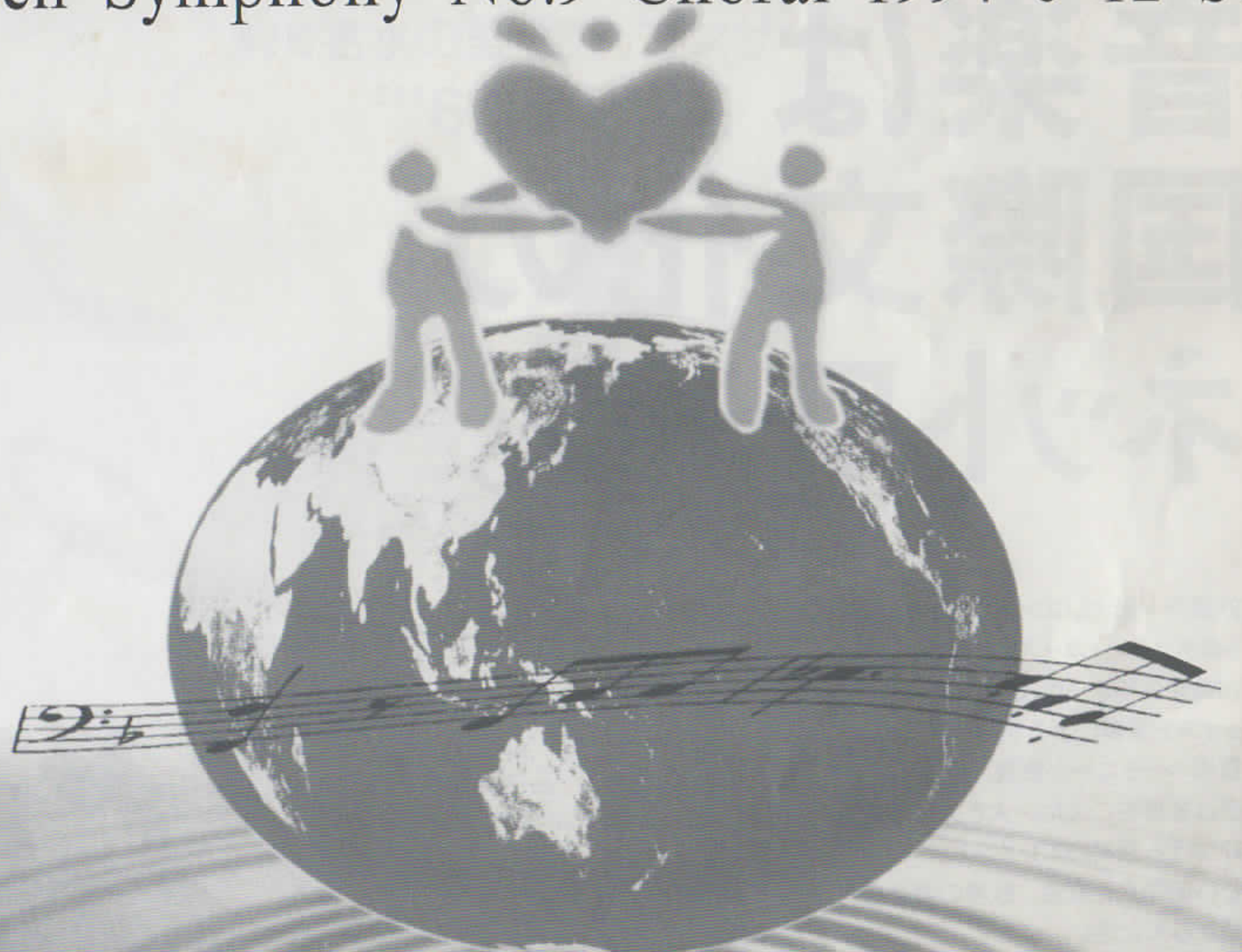


Beethoven Symphony No.9 Choral 1994.6.12.SUN



音楽は 国際文化の ネットワーク。

友好県州・米オレゴン州ポートランド市の
メトロポリタン・ユース・シンフォニーと
富山県青少年オーケストラの
ジョイント演奏による
歓喜のハーモニーが実現。
音楽は言葉をこえた、人と人の心を
結びつける最高のエレメント。
新しい国際文化交流、歓喜の響きを
お楽しみください。



黒部市制施行40周年記念事業ノ黒部国際文化センターオーブンプレイベント
メトロポリタン・ユース・シンフォニー&富山県青少年オーケストラ

第2回名水の里 第九コンサート

1994 6/12 (日) 午後2時開演
YKK 体育館



曲 目

ショスタコーヴィッチ：祝典序曲 作品96

ベートーヴェン：交響曲第九番 二短調 作品125「合唱」

指 揮

ラヨシュ・バロク

独 唱

ソプラノノ岩井 理花 (二期会会員)

ア ル トノ岩森 美里 (二期会会員)

テノールノ五十嵐 修 (二期会会員)

バ スノ高橋 啓三 (二期会会員)

合 唱

黒部で第九を歌う会

演 奏

メトロポリタン・ユース・シンフォニーオーケストラ

富山県青少年オーケストラ

このコンサートは、7月2日(土)午後2時~同55分の北日本放送特別番組で放映されます。

名水の里に響け！！



第九コンサートの公演にあたって

黒部国際交流音楽祭実行委員会

黒部で第九を歌う会会長 森丘 實

Minoru Morioka

*Executive Director, International Music Festival
President, Beethoven's Symphony No.9 Choir*

このたび、黒部国際交流音楽祭の初めての試みとして、「第2回名水の里 第九コンサート」に友好果州・米オレゴンのポートランド市メトロポリタン・ユース・シンフォニーオーケストラをYKK体育館に招き、富山県青少年オーケストラにも加わってもらい合同演奏会を開催するはこびとなりました。

ここにいたるまでには、富山県・黒部市はじめ、関係団体・関係各位の温かいご理解と格別のご支援を賜りました。まずは厚く御礼申し上げます。

このうちは、この黒部国際交流音楽祭の国境や年代を越えた歓喜のハーモニーが、国際都市をうたって着工されている黒部国際文化センターのオープンプレイベントとして、地域全体の盛り上りにつながることを念じてやみません。

終りに、ご指導くださいました諸先生、並びにご出演の皆様へ、深く敬意と謝意を表します。



黒部に響け歓喜のハーモニー

黒部市長 荻野 幸和

Yukikazu Ogino

Mayor of Karube

今年も黒部にベートーヴェン第九交響曲、歓喜の歌声が響き渡ることを心からお慶び申し上げます。

今回は、全国的にも大変珍しい外国の青少年オーケストラとの共演が実現するとのことであり、その素晴らしい試みに心から賛辞を贈ります。

音楽は世界共通の言語といわれています。黒部の青少年オーケストラとメトロポリタン・ユース・シンフォニーオーケストラとの合同演奏は、音楽という共通言語を通し、真の友情のシンフォニーが響き渡るものと確信いたしております。そのシンフォニーに200人の大合唱団が加わり、3,000人の聴衆と一体となった国際交流の歓喜の一大ハーモニーが黒部の大自然の中を突き抜けて行く……。実に素晴らしい光景です。

この素晴らしい企画のコンサートが、関係の皆様のご協力により、大成功を納められることを心よりお祈り申し上げお祝いの言葉とします。



夢の実現

黒部第九友の会会長 中上 彬

Akira Nakagami

President, Beethoven's Symphony No.9 Choir Association

この度、市制施行40周年を寿ぎ「黒部で第九を歌う会」の第2回名水の里第九コンサートが開催されますこと、心よりお喜び申し上げます。昨年、予想以上の成功を収めましたことは、皆様方の努力は勿論、熱心な応援の賜物とおおなる敬意を表します。今でも、あの日の感激、歓喜が胸裏に甦ってまいります。

本年はオーケストラで歌いたいという要望が強く、それなら国際交流を推進しております黒部と致しましては、外国のオーケストラを呼べないものかという夢のような話にまで持ち上がりました。森丘会長はじめ有志の方々の熱意はこの夢を現実とし、富山県と友好果州の米国・オレゴン州ポートランド市のメトロポリタン・ユース・シンフォニーオーケストラを招聘することに成功致しました。団員一同には昨年と違った緊張感が漲っております。

必ずや、名水の里に相応しい歓喜の歌声が響きますことを確信し挨拶と致します。

歓喜のハーモニー'94



心に残る「第九」を

北日本新聞社代表取締役社長 **上野 隆三**
Ryūzō Ueno
President, Kita-Nihon Newspaper

第2回「名水の里第九コンサート」の案内状を受け取った時、私の脳裏に昨年の演奏会のシーンが鮮やかによみがえった。オーケストラ役を務める10台のピアノ、いきなり第4楽章から始まり、盛り上がりみせる荘厳なコーラス。「第九」の前のソリストたちのガラコンサートも秀逸だった。

今回の演奏会もユニークだ。ユース・シンフォニーと北日本新聞社がお世話している県青少年オーケストラがジョイントでバックを受け持つという。青少年オーケは、昨年砺波市で「第九」を手掛け自信をつけたし、ユース・シンフォニーもかなりの腕前と聞いている。しかも、ユースの本拠地は富山県の友好県州である米国のオレゴン州だから、立派な国際交流である。若い人たちが、きっと息の合った心に残る演奏を聞かせてくれることだろう。

おじいちゃん、おばあちゃんから孫まで参加する手づくりの「第九」は、最も古い富山市が今年でちょうど30回、新湊市は10回目を迎える。砺波市も昨年で2回を数えた。そして、黒部市では昨年の演奏会が終わった直後から早くも第2回の準備が始まる熱の入りようである。「第九」は名水の里にしっかりと根付いた。心強いことである。



お祝いのことば

北日本放送株式会社代表取締役社長 **角尾 信一**
Shin'ichi Kakuo
President, Kita-Nihon Broadcasting Co.

「第2回名水の里 第九コンサート」の開催を心からお祝い申し上げます。

第1回の昨年は10台のピアノ、20人のピアニストによるオーケストラパートの演奏が話題となりましたが、黒部市制40周年を記念した今回は、富山県と友好県州であるアメリカ・オレゴン州ポートランドから、メトロポリタン・ユース・シンフォニーオーケストラを招き、富山県青少年オーケストラとの合同による管弦楽が実現しました。

北日本放送はポートランドのKGW-TVと姉妹局関係にあり、そのことが今回の画期的な国際交流のきっかけとなりました。とてもうれしく思います。ソリストに豪華メンバーを迎えた黒部市民を中心とする合唱団が声高らかに歓喜と交流の歌声を響かせて下さることを楽しみにしています。

きょうのコンサートが美しい黒部の初夏にふさわしい爽やかなものとなり、地域文化の向上に大きく貢献することをお祈りし、お祝いの言葉といたします。



新しい発展を祝して

富山県合唱連盟理事長 **新井 文男**
Fumio Arai
Board of Directors, Toyama Choir Union

第2回名水の里第九コンサートの開催を心からお祝い申し上げます。今回は黒部市制40周年記念また、黒部国際文化センターオープンイベントとして、黒部で第九を歌う会はポートランド市のメトロポリタン・ユース・シンフォニーオーケストラを招聘し、富山県青少年オーケストラの参加を得た合同オーケストラの共演とのことで、まことに国際交流を推進しておられる黒部市にふさわしい企画と思います。

言うまでもなくシラーの「歓喜への頌歌」と共にある第九交響曲の偉大さは、単に倫理的な意味ではなく、偉大な魂の素直なひたむきな表現であり、気高い熱望の火をかがげ、全身・全霊を燃えたたせている曲であると私は思うのです。この大きな交流から生まれる新しい歌声が心を合わせ、声を高くあげて永遠に燃える美しい火を共にかかげる、Freude, schöner Götterfunken...、この意味は深いものがあります。力強い演奏と新しい発展を期待しています。



● ショスタコーヴィッチ：祝典序曲 作品96

交響曲第5番「革命」などでおなじみのショスタコーヴィッチ(1906~1975)は、20世紀ロシアを代表する音楽家の一人として多くの交響曲、歌劇、バレエ音楽や劇場音楽を作曲しました。この序曲は第2次世界大戦後に着工したボルガ河とドン河を結ぶ運河が1952年に完成したことを祝って1954年に作曲されたものです。

変化にとんだ輝かしいファンファーレに始まり、流れるようななだらかな旋律の序奏が続き、速い2/2拍子の主部に入ります。第2主題はホルンやイングリッシュホルンにより大らかにのびのびとした旋律が奏でられます。そして再びファンファーレのテーマが現われ、さらにテンポを早めて、プレストのコーダに入って終わります。

華やかで喜ばしい雰囲気を持つエキサイティングな曲として広く知られている序曲です。

● ベートーヴェン：交響曲第九番 ニ短調 作品125「合唱」

ベートーヴェンが「第九」を完成させたのは、1824年の春まだ浅いころのことでした。当時すでに53才になっていた彼は聴覚をまったく失っていました。しかし、その偉大なる精神と長年心の中に暖めていたシラーの詩への熱い思いが、この大曲を完成に導いたのです。

ベートーヴェンがシラーの頌歌「歓喜に寄す」に出会ったのは、まだ20代の初めのころ。この詩の底に流れる民主的な思想にたいへん感激したベートーヴェンは、その時からいつかこの詩に曲をつけたい…と願っていたのです。その積年の思いがようやく実行に移されることになったのは47才のとき。実に30年という歳月を経て初心を貫いたこととなります。

ベートーヴェンはこの偉大なる交響曲で一体何を言いたかったのでしょうか。苦悩を経て喜びへ、ということだけでは決してないはず。彼は生涯独身でした。でも、女性にあこがれ、友人を求め、弟や甥などの家族を大切にしました。彼は人間をこよなく愛した人でした。この冒頭の「友よ！」という呼びかけは、すべての友に対するものなのです。自分のまわりの友、世界の友。そして時を越えて、20世紀に生きている私たちにも「友よ！」と語りかけているのだと思います。「みんなで苦しかったことを忘れ、明日に希望をつなごうじゃないか」とベートーヴェンは言いたかったのです。その温かな人間好きのベートーヴェンの心情が音楽から見えるからこそ、世界の人々にこんなにこの曲が愛されているのではないのでしょうか。彼はモーツァルトのように天才とは呼ばれないし、バッハのように家庭に恵まれたわけでもない。そしてシューマンのように繊細とも評されないし、ショパンのように容姿に恵まれたわけでもありません。ベートーヴェンは努力の人といわれ、私たち普通の人間の代表格のような親密感を備えています。そんな感情を持ったベートーヴェンが、すべてのものに対する愛がいかに大切かということ、その音楽で訴えているのです。

● 第1楽章 Allegro ma non troppo un poco maestoso

広大な宇宙を思わせる神秘的な力強い旋律が、壮大な交響曲の開始を告げています。これは人生の苦悩や悲しみ、希望や慰めなどあらゆる感情が表現されている楽章です。ベートーヴェンは自分の生涯を振り返り、人生を戦いに例えたのではないのでしょうか。

劇的で強いメッセージを持つ、幕開けにふさわしい音楽です。

● 第2楽章 Molto vivace

弦の鋭い響きが全体に躍動感を与えています。また、ティンパニの小気味よいリズムも印象的です。これは、初演時に大きな喝采を持って迎えられた楽章です。衝撃的なティンパニの独奏は当時の人々を驚かせ、アンコールの拍手がなりやまなかったとか。

魂が浄められるような美しさ、そしてユーモアの精神も感じられます。

● 第3楽章 Adagio molto e cantabile

美しいゆるやかな楽章で、神への感謝を表すような祈りの気持ちが表現されています。やすらかな主題の変奏にはさまれた中間部が特に美しく歌われます。

終わり近くのホルンの長いソロは、この時代としては画期的な用いられ方だったようです。歓喜を前にしたやすらぎを感じさせ、来るべき何物かに心の準備をうながすかのようです。

● 第4楽章 Prest-Allegro assai

プレスト（きわめて速く）のファンファーレから始まり、低弦が何かを語りかけるようにレシタティーヴォを奏でます。続いてこれまでの3つの楽章の主題が少しずつ順番に現われてはそのたびにレシタティーヴォが打ち消し、そしてついにあの「歓喜の主題」が聞こえてきます。やがて大音響とともにバリトン独唱によって「おお、友よ、このような調べではなく、もっと快い、喜びに満ちあふれた調べを歌おう」と力強く歌われ、独唱、重唱、合唱、オーケストラを一体化した歓喜の合唱「抱かんもろ人よ、心あわせて…」が始まります。歌はオーケストラに従うことなく、またオーケストラは歌に従うことなく、互いに豊かに融合し合っているのです。



歡喜の歌

〈ベートーヴェンの自作〉

おお、友よ、この音楽ではない。
もっとこころよい、
もっと喜びに満ちた音楽を、
われわれはかなでよる。

〈F. シラー原詩〉

喜びよ、美しい神々の火花よ、至福の島エリージウムの娘よ、
われわれは火のように酔いしれて、崇高なところ、おまえの聖所へ踏み入る。
おまえの魔力は世のならわしがきびしく別けへだてたものを
ふたたび結び合わせ、すべての人びとは
おまえのやさしい翼のやすらうところに兄弟となる。
一人の友の友となる大きな成功を得たものは、
やさしい妻をかり得たものは地上にただ一つの魂でも
自分のものと呼びうる者は、その歡喜をともにせよ。
そしてそれができなかった者は、
泣きながらひそかにこの仲間から立ち去るがよい。

すべてのものは自然の乳房から喜びを飲む。
すべての善いものも、すべての悪いものも、
自然のバラ色の道を辿ってゆく。自然はわれわれに接吻を与え、
ふどうと、死の試を経た友を与えた。快樂は虫に与えられた。
そして光の天使ケルブは神の前に立つ。うれし気にひかりかがやく太陽が
壮麗な天界をわたるように、兄弟たちよ、
英雄が勝利に向かってすすむように、きみたちの道を喜ばしく進め。

数百万のひとびとよ、抱き合え。この接吻を、全世界へ。
天空のあなたに愛する父が住んでいるにちがいない。
きみたちはひざまづくか、
数百万のひとびとよ。
創造主に気付くか、世界よ。
天空のあなたに創造主を求めよ。
星のあなたに彼は住んでいるに違いない。

O Freunde, nicht diese Töne !
Sondern laßt uns angenehmere
anstimmen, und freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum !

Deine Zauber binden wieder, was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder, wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele sein nennt auf dem Erdenrund !

Und wer's nie gekonnt, der stehle.
Weinend sich aus diesem Bund !

Freude trinken alle Wesen, an den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

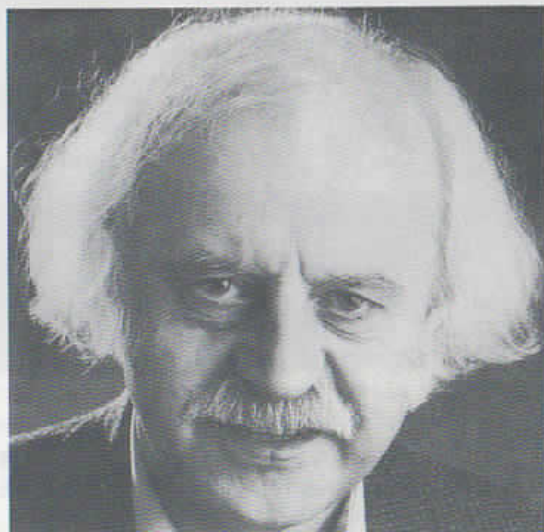
Froh, wie seine Sonnen, fliegen durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet ! Brüder, eure Bahn, freudig, wie ein Held zum Siegn.

Seid umschlungen, Millionen ! Diesen Kuß der ganzen Welt !
Brüder ! überm Sternenzelt muß ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !

Über Sternen muß er wohnen.

Conductor



指揮/ラヨシュ・バログ (Lajos Balogh)

メトロポリタン・ユース・シンフォニーの創立指揮者。ハンガリー・ツブロン市に生まれ、ブタペスト市のリスト音楽院で、Rados, Jandanyl, Kodalyの下で学び、またミュンヘンやハンブルグでは、Stiehler, Tibor Bargaに学ぶ。そしてドイツ、スイス、フランス、スペイン、ポルトガル、オランダ、イギリス、アメリカ各国で室内楽演奏、またミュンヘン市、ニュルンベルク市、ゲッティンゲン市、オレゴン州等のオーケストラではソリストとして参加している。

レコーディングも精力的に行い、ブタペスト市、ミュンヘン市、ブレーメン市、フランクフルト市、またロンドンBBC、VOX、ポートランド市などテレビ局で活躍している。

現在はMYSの他にメリルハースト・シンフォニー・オーケストラとポートランド・フェスティバル・オーケストラの指揮者を務め、オレゴン州シンフォニー・オーケストラの首席ヴァイオリン奏者としても活躍している。



Prior to this concert tour to Japan, the Metropolitan Youth Symphony has participated in two international tours to Europe. In 1990 we visited and played concerts in Austria and Hungary — places where Mozart, Haydn, and Beethoven lived and worked. Our second European tour in 1992 again took our students to cities where great musicians had lived. We visited Halle, Leipzig, Prague, and Vienna, which were the homes of composers such as Handel, Bach, Mendelssohn, Schumann, Dvorak, Smetana, and Schubert. These tours reinforced the commitment of our organization to travel to other countries and to forge international friendship between young musicians.

For me and for all of our musicians, this third international tour to Japan is very exciting. Japan is well known to the world for its electronic and other technological achievements. Musical instruments, such as Yamaha pianos, also enjoy the highest reputation. Additionally, the Tokyo Philharmonic Orchestra, the Japan Philharmonic Symphony Orchestra, and the Tokyo String Quartet, just to name a few, represent the high performance standards of Japanese society. Conductors Seiji Ozawa, Kazuyoshi Akiyama, Akeo Watanabe, and Tadaaki Odaka, are among the best in the world. And, of course, who among us does not have a few Suzuki violinists as friends? It is a wonderful opportunity for all of us to visit the land that has produced this excellence.

This will be my first time visiting the Orient, which represents a new world, a new culture, and a different way of life. It is a very exciting experience. Performing Beethoven's *Symphony No. 9* jointly with young Japanese players and choir is a significant undertaking. This is a massive work in its difficulties and complexity. Its powerful message of brotherhood, Beethoven's credo, is a strong reminder to mankind in times of international tensions as well as in peace.

I am very grateful to our sponsors and our hosts for making this wonderful event possible.

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Lajos Balogh', written in a cursive style.

ラヨシュ・バログ氏からのメッセージ

今回、日本でのメトロポリタン・ユース・シンフォニーの海外コンサートツアーは1990年、1992年に続いて3回目となります。第1回の'90年にはモーツァルト、ハイデン、ヘンデルが生まれ育ったオーストリアとハンガリーで演奏しました。

第2回の'92年にはハーレ、ライプチヒ、プラハ、ウィーンなどヘンデル、バッハ、メンデルスゾーン、シューマン、ドボルザーク、スメタナやシューベルトの故郷を訪問し演奏しました。これらのツアーの目的は、国際理解をはかり、また若い演奏者どうしの国際的な友情を深めることです。私たちMYSは、3回目の海外ツアーで日本を訪問することができ心から感激しています。日本の優れた技術や電気製品は世界中によく知られており、音楽の分野でもヤマハ製のピアノなど高い評価を得ています。また、東京フィルをはじめ日本フィル並びに東京弦楽四重奏団などが世界的に著名であり、日本社会の音楽的基準の高さを示しています。小澤征爾、秋山和慶、渡辺暁雄、尾高忠明の各氏も世界でトップクラスの指揮者であるし、また「鈴木式」のヴァイオリン奏法は世界各国でもよく利用されています。このような素晴らしい国を訪問する機会を得ることができ、私たちはとても喜んでます。東洋の国を訪問するのは初めてですが、新しい世界の文化や生活に触れることをとても楽しみにしています。日本の方々とは合同で「第九」を演奏することは、大変な事業でありとても意義深いことであると同時にさまざまな困難も予想されます。しかし、国際関係が緊張している今、平和を願う私たちにとって「兄弟たちよ！」というベートーヴェンの信条が表現されている「第九」は、力強いメッセージとなって世界に呼びかけて行くのです。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった主催者をはじめ、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

Performer



Metropolitan Youth Symphony

メトロポリタン・ユース・シンフォニー協会は、1974年にラヨシュ・パログ氏によって創立された。現在は「シンフォニー・オーケストラ」「室内オーケストラ」「コンサート・オーケストラ」「予備オーケストラ」「序曲オーケストラ」という5つの楽団を設けている。メンバーは250人に及び5歳～19歳のポートランド出身である若者たちから成り立っている。

MYSは才能のある青少年音楽家を育て、最高のトレーニング機会を与えることを目的としている。メンバーは毎週土曜日に4時間、コンサートごとにはもちろん個人的にも学校の団員としての練習も熱心に行っている。

今回来日する「シンフォニー・オーケストラ」は、MYSの中でも最上級の楽団で、11歳～19歳の105名の青少年で構成されている。

そして、ポートランド随一のホールで開催される「クリスマスコンサート」、地元の美しい教会での「中期コンサート」、世界の大イベントとして盛大に開催される「バラ祭りコンサート」など年に3つの大きなイベントに参加し、また海外では1990年と1992年にヨーロッパ演奏ツアーを行い、ドイツ、オーストリア、ハンガリーを始め、様々な国の音楽祭に参加し国際的な演奏体験をしてきた。これらの海外ツアーはメンバーに大変素晴らしい影響を与えており、今回の日本演奏ツアーもより素晴らしいものになると信じている。

1st Violin

Monica Avolio
Liesel Blumenthal
Jennifer Ewing
Beverly Gray
Ivan Gray
Kevin Gwartney
Rebecca Han
Mao Kim
Justin Mackewich
Katharine Morgan
Mzuri Robertson
Sarah Rosengrant
Melissa Seim
Amy Weston
Katie Zaccardi

2nd Violin

Heather Andrews
Emily Bladen
Christopher Brown
Lila Elteto
Travis Gray
Bethany Harris
Ben Kirkendoll
Ben Kirkendoll
Tim Krajcar
James Lee
Michelle Lowry
Virginia Nicoll
Nathan Osborn
Maria Swan
Anne Swart
Karri Townley
Julio Zaccardi

Viola

Kay Anderson
Andrea Avolio
Margit Beiningen
Casey Enstrom
Kristin Fletcher
Rebecca Lynch
Corey Proctor
Jillian Saurage-Holmer
Dawn Sabin
Maegan Vidal

Violon Cello

Andrea Broding
Marie Enstrom
Sam Falk
Kelly Galey
Nathan Gwartney
Brooke Hallinen
Ali Heimes-Ferris
Erin Hunt
Levi Manselle
Lauren Ridgley
Rachel Timmons

Contra Bass

Andy Anderson
Jeremy Kato
Sara Jones
Ingrid Nordt
Gianna Pennington
David Perry

Clarinet

Jennifer Luntsford
Stephanie Ota
Tessie Phaby
Justin Reeves

Flute

Annie Chen
John Haek
Lauren Osborne

Oboe

Michael Choe
Raohel Hegberg
Julie Laing
Brenden Odell
Heather Stewarg

Bassoon

Jennifer Stockpelt

Trumpet

Chris Mallory
Ian Westbrook

Horn

Michelle Burch
Melinda Kahre
Jeff Shelley
Beth Timmons

Trombone

Robert Kokta
Benji Singer
Holly Wysake

Tuba

James Pesheck

Percussion

Percussion
Kris Andeen
Leon Feuerstein
Michael School



写真提供/北日本新聞社

富山県青少年オーケストラ

昭和43年、当時の富山商業高校学校長で後の県教育委員会教育長であった村上元之輔氏（故人）が、全国的に吹奏楽水準の高い本県の「管」部門と、「弦」部門を結び、富山に青少年オーケストラをつくる構想を説いたのが発端となる。以来、管部門は坪島照信氏、弦部門は大沢和夫氏の指導により、昭和46年に第1回定期演奏会を開催した。

このオーケストラは、小学生から高校生までを中心に大学生・一般社会人から編成されており、その活躍ぶりは音楽専門誌でたびたび全国で紹介されており、海外でも親善演奏会を数多く行っている。

昭和52年8月、県代表・国代表の音楽使節として大韓民国

55年3月、管部門がアメリカ・メキシコ

8月、弦部門がスイス

59年12月、フィリピン

63年8月、ハンガリーで交歓親善演奏

そして、国内でも平成元年に、新潟市ジュニアオーケストラとの交流が始まり、同年11月には北日本新聞社文化功労賞を受け、平成2年、同5年には、となみ野音楽祭「真夏の第九」にも出演し好評を博した。

また、朝比奈隆氏、ジャン・ピエール・ランバル氏など国際的な演奏家との共演や、指導を受けた演奏家の氏名は枚挙にいとまがないほどである。

1st Violin

高田 愛子(高2)
下村 理恵(高2)
高田 悠理子(中3)
辻 久直(高1)
福本 絵美(中3)
西境 美紀(中2)
塩原 真知子(中1)
嶋 志保子(中1)
本多 素奈緒(中3)
佐藤 資美
阿原 直子(大4)
阿原 昌美
酒井 寛樹
村中 美希代(高3)

Violon Cello

加藤 悠希(中2)
朴谷 修
山下 伸子
高田 哲夫
松島 健一郎

Contra Bass

吉岡 春奈(高2)
吉田 幸代
藤島 晃彦

Flute

後藤 珠美
松倉 靖恵

2nd Violin

青野 和明(高3)
内山 隆達(高3)
岡崎 文(高2)
鶴谷 真夕(高2)
上口 雄亮(中2)
梅原 孝太(中2)
辻 博文(中2)
富田 洋介(中1)
岡 ちとせ(中3)
原 崇教(中2)
土井 奏(大4)
寺田 真紀子(大2)
加藤 沙弥香(高1)

Bassoon

黒田 希望
今井 理香

Contora Bassoon

木挽 仁志

Trumpet

飛弾野 典子

Viola

守護 菊野
中嶋 明子(大4)
辻 直史
高田 誠治
山下 三郎
高田 亮二

Soloist



ソプラノ

岩井 理花

RIKA・IWAI

東京芸術大学及び同大学院に学ぶ。

高橋大海、瀬山詠子、河井弘子、リア・グアリーニ、アルフォンゾ・シリオティの各氏に師事。

'85年日本音楽コンクール第2位

'86年文化放送音楽賞受賞。翌年よりイタリアのミラノへ留学。'88年ノヴァラ国際声楽コンクール入賞。ティト・スキーバ国際声楽コンクール第2位（1位なし）。'89年イタリアのレッツェ市ポリテマアの歌劇場で「ラ・ボエーム」のムゼッタ、「ファウスト」のマルガレーテ、「蝶々夫人」のタイトル・ロール等を歌う。

'90年に福国し、二期会のオペラ「神々の黄昏」「カルメン」「ラインの黄金」等に出演。

'92年第1回藤沢オペラコンクールで第2位となり、「トゥーランドット」のリューで絶賛される。

'93年3月小澤征爾と「トスカ」を上演。また7月には二期会の「トロヴァトーレ」で主役レオノーラを歌う。オペラ以外でも「第九」のソロ、ミサ曲、歌曲にも力を注いでいる。



アルト

岩森 美里

MISATO・IWAMORI

国立音楽大学及び同大学院修了。

畑中更子、畑中良輔、中村健、島田和子、ニーナ・スターノ、正田生次郎の各氏に師事。二期会オペラスタジオ第27期生修了後オペラ研究所第5期生を修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてウィーンへ留学。

'82年「フィガロの結婚」でオペラデビュー。二期会オペラスタジオ卒業公演「カルメン」では、タイトル・ロールを見事に演じ特別賞を受賞。

'86年二期会公演「ワルキューレ」のロスヴァイセ以降、'88年「メリー・ウィドウ」のラシュヴィア、'89年「ヘンゼルとグレーテル」のゲルトルート、'90年「フィガロの結婚」のマルチェリーナ、'91年二期会創立40周年記念公演「神々の黄昏」第2のノルン、「フィガロの結婚」のケルビーノ、「ティドとエネアス」の魔女、「蝶々夫人」のスズキ等を演じている。'92年3月の二期会40周年記念公演、二期会初原語上演「カルメン」ではタイトル・ロールに抜擢され好評を博した。コンサート分野では、「第九」「メサイヤ」「エリア」などに出演している。



テノール

五十嵐 修

OSAMU・IGARASHI

武蔵野音楽大学声楽科卒業。

森 敏孝、渡辺一夫の各氏に師事。第14回イタリア声楽コンソルソではシエナ大賞（第1位）並びにテノール特賞受賞。第20回日伊声楽コンソルソ第2位入賞。第53回日本音楽コンクール第2位入賞（1位該当者なし）。イタリアにおいて故マリオ・デル・モナコ氏に師事しディプロマを授与される。

モーツァルトの「魔笛」のタミーノでオペラデビュー。その後「オッテロ」のオッテロやカッシオ、「椿姫」のアルフレード、「シモン・ボッカネグラ」のガブリエレ、「サロメ」のヘロデ王やナラポト等数多くのオペラに出演し、その優れた音楽性は常に高い評価を受けている。特に、二期会40周年記念公演「リゴレット」のマントヴァ公爵、並びに「トスカ」のカヴァラドッシでの演唱は“匠巻であった”と評された。コンサート分野では「第九」「メサイヤ」「レクイエム」「グローリア・ミサ」等のソリストとして全国各地のオーケストラと共演。幅広いレパートリーで活躍している。



バス

高橋 啓三

KEIZOU・TAKAHASHI

東京芸術大学卒業。

磯谷威、大熊文子、中山惇一、渡邊高之助、の各氏に師事。第44回日本音楽コンクール第2位入賞。'82年第10回及び'89年第17回ジロー・オペラ賞を受賞。

芸大在学中に「トスカ」のアンジェロロッティ役でデビュー。その後二期会を中心に藤原歌劇団、イタリア歌劇団、日本オペラ、オペラプロデュースなどの公演に出演。豊かな声量を誇る美声のバス・カンタービレとしてオペラに欠くことのできない存在である。主な役に「フィガロの結婚」のフィガロ、「魔笛」のザラストロ、「リゴレット」のスパラフチレ、「タンホイザー」のヘルマン等数多くの出演をし、スケールの大きい歌唱力と演技で絶賛されている。特に'91年二期会創立40周年記念公演「神々の黄昏」のハーゲン、さらに同公演「ラ・ボエーム」のコレリーネや、「シモン・ボッカネグラ」の悪役ヤコボ・フィエスコでも大好評を博した。コンサートの分野でも「第九」「メサイヤ」「マタイ受難曲」「ロ短調ミサ」「森の歌」など幅広いレパートリーを持ち、オラトリオ歌手としての地位を築いている。

Chorus



ソプラノ

朝倉一美
飯沢裕美子
五十嵐有里
伊東真弓
伊藤容子
稲場恵美子
伊野久美子
上田郷美
上田京子
上野志津子
大勢待祐美子
大田ゆか子
大野美鈴
音頭万里子
角本睦子
金山智子
上岸泰子
経塚京子
吉島加都子
木村留美子
鬼原まゆみ

黒川恭子
児沢和子
坂口弘美
坂本利子
佐々木矢子
高見玲子
竹内美和子
谷川みのり
大門雅子
辻 栄子
経田恵子
土井暁子
長島香織
長田雅子
西山靖子
能島京子
能登庸子
箱井千恵子
橋爪晴子
畠山明美
浜屋真美

林 亜紀子
飛弾美智子
藤森真由美
宝泉妙子
松田多賀子
松原則子
松村美智代
間部澄子
松本幹子
松本幸子
三浦博子
宮崎美和子
宮崎己生子
村椿亜紀子
村椿悦子
村椿尚美
森 真由美
保田和子
結城美喜子
横田まどか
吉野きみ子

ア ル ト

青島三千代
朝田美尾子
新井圭子
行沢鈴子
飯田尚美
池村玉江
石崎美佐子
井田朱美
稲沢多鶴子
岩田博子
上原暁美
梅原恵美子
浦田美保
大勢待千枝子
大坪由美子
大野順子
大村久美
荻野基子
小倉洋子
團 道子
加藤きみ子
川西かず江
川原麻希子
木野本靖子
木本久美子
熊野幸子
窪野多寿子

小沢光子
小島尚美
小栗松香織
小林雅美
佐伯順子
佐々木惇子
笹原桃子
佐渡美也子
鮫沢ひろ子
三田慶子
柴沢知子
島 富子
島 利絵子
清水志津子
清水知美
城 保子
神保宏美
菅原淑恵
関口隆子
高岡尚子
高村広子
高本一恵
竹山孝子
籠野ゆり
田中一代
谷 笑子
谷口ふみ子

谷口真美
大上戸美智子
大丸幸子
辻 美智子
得能真知子
栢沢富美子
東 瓜 和
飛世静子
飛世ちか子
飛世良子
中坂陽子
中島二美子
中坪 薫
中田有美
中陳幸恵
七沢幸子
野田久美子
能登一美
能登待子
能村真智子
橋元美輪子
長谷川保寿子
長谷川結子
長谷川由美
花岡光子
飛弾恵子
平山順子

福島やす子
藤田貴子
堀口恵子
前田ふさ
松尾珠美
水白千秋
南塚美代子
村井富子
村瀬靖子
村田佳子
目沢郁乃
森内裕子
森田優子
森山良子
安原麗子
山沢葛枝
山瀬恭子
山田寿美子
山中敏子
横谷恵子
横山智子
余西典子
綿 真理子

テノール

魚谷国勝
尾川敬一
大野久芳
小倉政美
川西真人
木下博信
上坂芳弘
越 雄一
沢井栄次
鷹田利治
谷川朋宏
南保弘幸
箱井 勉
長谷川邦夫
八川 進
広田兼一
広野 誠
福島光繁
深川英久
藤田信幸
松木裕一
松倉正機
松平 修
山口正人

バ ス

天野不二雄
五十里大樹
今仲義博
加藤敏明
北山善章
小島真一
桜井 麗
島倉敏夫
関原正浩
田中義三
大上戸里志
寺林武司
土肥弘幸
長田行正
長谷川光一
幅口文史郎
原村信生
広瀬孝信
平田謙司
松谷茂樹
道下田可雄
屋木 栄
八木拓道
柳川一成
米田幹雄
米田隆太郎

黒部で第九を歌う会役員

会 長	／森丘 實	理 事	／南保弘幸	池村玉江	平井輝子
副 会 長	／木本 功		大野久芳	前田ふさ	国香正了
	橋本良充		椿 秀雄	川原辰雄	中井紘明
	田中純子		田中義三	松井正春	山口正人
顧 問	／宮腰光寛		木下博信	鷹田利治	山谷国昭
	堀内三郎		高島信行	沢田邦男	中田勝代
	北日本新聞社		荻野真人	亀谷政春	伊東景治
	北日本放送		広野 誠	川端康夫	堀内康男
	富山県合唱連盟		長田美津枝	川本元充	間部澄子
参 与	／黒部市芸術文化振興協会		高岡尚子	北山善章	三井 香
	黒部ライオンズクラブ	事務局 長	／三井適夫		
	黒部ロータリークラブ				
監 事	／島倉敏夫				
	北山善之進				
理 事 長	／松倉正機				
副 理 事 長	／武藤憲夫				
	森野泰夫				
	長谷川光一				



特別講師 浅岡節夫
新井文男
中村義朗

合唱指導者 椿 秀雄
澤谷美也子
中田勝代
二本松洋子
三井 香

練習伴奏者 法原留美佳
鍛冶真由美
笈田 泉

第九友の会会員

四十物直二 黒四十物昆布代表取締役
朝倉秀芳 南カーメンテナンス朝倉代表取締役
朝田美尾子 魚津市
浅野博 浅野ヒツ家具工業社長
油谷靖彦 桜井建設専務取締役
池田健吉 池田内科医院
池村清 善道教室主宰
藤石丸 泉田醤油店代表取締役
泉田利祐 泉田醤油店代表取締役
板倉肇 黒北信コンクリート工業所取締役
伊東寿男 中央化学黒北陸工場長
稲沢多鶴子 三田市婦人会副会長
岩瀬新二 皇国晴酒造(資)代表
大坪作鷹 柳生地第一温泉代表
大坪達弘 南壁装タツヒロ代表取締役
大野久芳 黒部市議会議員
大橋聡司 大高建設取締役
荻野真人 ファッションオギノ
荻野幸和 黒部市長
小倉孝夫 小倉歯科医院
藤開進堂 黒部市
角本睦子 黒部市
湯田正夫 湯田石油社長
加藤耕一 加藤楽器代表
金山宏明 カナヤママシンリー代表取締役
金山田亮春 金山外科医院
亀谷政春 柳サニードライブプロダクト代表取締役
川端純一 川端織工代表取締役
川端康夫 川端織工専務
河村一郎 河村左官工業所専務
川本元充 北陸機材代表取締役
北山善之進 北山歯科クリニック
北山良清 柳北山仏具店代表
木下信久 木の久食品代表
木本功 柳ダイケイ常務取締役
国香正了 称名寺副住職
熊野弘 熊野豆腐店
黒部市役所部長会
黒部市役所課長会
黒部市芸術文化振興協会
小林哲哉 前沢ガーデンハウス料理長
米屋正治 北星ゴム代表取締役
狐狸庵

斎藤欽彌 日経運輸代表取締役社長
藤本孝雄 坂本病院
佐々木柴子 黒部市連合婦人会
佐々木恵一 佐々医院
三箇武一 柳フジエージェンシー代表
柴田幸三 柳しばた社長
島倉田正夫 吉田工業専務取締役
城野保子 島田歯科医院
菅野寛二 三田市婦人会
杉井衛之 菅野印刷製業代表取締役
杉田善之 杉井外科医院
助千代 高東製業社長
高鷹尚子 千代医院
高田喜朗 生地婦人会会長
高竹村内 高竹村肉店
武田中義 黒部市連合婦人会
田中純子 日経エンジニアリング黒北陸支店長
大上戸茂夫 武蔵鉄工代表取締役
大丸丸隆吉 黒部市議会議員
大辻椿秀雄 大上戸電気社長
寺田義実 大丸石油社長
寺田美山 柳モードツシ代表取締役
飛鳥邦彦 黒部混声合唱会主宰
中井絃明 柳てらだ代表取締役
仲井間憲成 柳美山
中上彬一 共和土木代表取締役
中瀬和馨 中井酒店代表
中田陽一 黒部市民病院
中西清一 第九友の会会長
中松信一 生地蒲鉾代表取締役
中谷唯津枝 柳テイルロイヤルバリー黒部社長
長七沢清松 黒部建材代表取締役
難波保弘 黒部建材専務
南能登幸肇 中西グループ協同組合代表理事
橋本良充 黒部市連合婦人会
黒部造形研究所(アートハウスなかや)
黒部市連合婦人会副会長
朝日町
北陸銀行黒部支店長
黒部市収入役
立山工機代表取締役
柳パ・ド・ドット代表取締役

長谷川光一 東洋ゼンマイ柳代表取締役
長谷川徹 柳長谷川工務店代表取締役
島平興作 島平司法書士事務所
花岡宏吉 花岡デザイン事務所
林繁隆 八尾物産代表
樋口恵美子 黒部市連合婦人会
飛弾恵子 黒部市石田
平野明 柳平野工務店専務取締役
広野恵美子 装苑ひろの代表
広野誠 装苑ひろの
舟屋悦郎 柳ふなや代表取締役
船屋芳秋 クリエイティブふなや代表
堀内商会 柳
堀内三郎 富山県議会議員
前田ふさ 三田市婦人会会長
松木祐一 YKK松木協力工場
松倉正博 柳松倉呉服店代表
三三井適夫 柳ミタックス代表取締役
柳ミツイ代表取締役
柳ミヤコ楽器店
宮腰工業所 柳
宮腰光寛 富山県議会議員
武藤惠夫 富山女子短期大学助教授
武藤光行 黒部大災海上保険柳柏支店長
武藤葉子 黒部音楽院講師
森丘實 第九を歌う会会長
門前正洋 小泉印刷専務
柳沢多加志 柳沢眼科
八木正 黒部市
山口正人 柳山口技研代表取締役
山下武志 山下製材所専務
山沢葛枝 黒部市石田
山瀬恭子 黒部市連合婦人会
山谷国昭 柳山谷書店代表取締役
山野晋 柳ダイヤックス柳常務取締役
横井昭平 柳横井産婦人科
吉田重治 柳吉田商會代表取締役
吉米田忠裕 吉田工業柳取締役代表
渡部佐敏 柳米田医院
柳タートルライン代表

名水の里に響け!
歓喜の
ハーモニー

【主催】黒部で第九を歌う会

北日本新聞社
北日本放送
富山県合唱連盟

【後援】黒部市

黒部市教育委員会
黒部市芸術文化振興協会
黒部ライオンズクラブ
黒部ロータリークラブ
黒部青年会議所
黒部商工会議所青年部
黒部市連合婦人会
くろペミュージックスクエア

【協賛】(財)松翁記念財団

Y.K.Kグループ

ベートーヴェン
交響曲第九
'95合唱団員
募集!